

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

# TAKATSUKI

Days

令和4年

10

No.1415

特集

生活を彩る花とグリーン。



連載

キラリスポーツ

「グラウンド・ゴルフ」

たかつき歴史アラカルト

「淀川沿いの遺跡」

週末どこ行く？ 何食べる？

おでかけDAYS

「原エリア」

\\ CLOSE UP /

1. 「みらい創生」の取り組み

2. 令和3年度決算

暮らしに憩いを。

花と緑が豊かな家。

おうちにいる時間がうるおう、花や緑を飾る暮らしを拝見。



# 緑で くつろぐ。

グリーンアドバイザーや園芸装飾技能士の資格を持つ一戸建て住宅にお住まいの川村敦子さん。「育てることが好きなんです」と、家中、外で多くの植物の世話をします。リビングルームの出窓では、多肉植物などとともに、愛らしい鉢やオブジェも置かれて、心和む風景を演出。「土を触っていると、人間本来の力を感じます」と庭を埋めるグリーンにも癒されます。

好きな植物は「ピカクシダやウスネオイデスなど個性のあるもの」という川村さん。



(写真上)ユリをはじめシックな色合いでまとめた花。(写真右下)和室の仏壇にはビタミンカラーの花を。

# 花を愛でる。



「花はインテリアの一部として楽しんでいます」とマンションで暮らす高木怜子さん。ソファやテーブルなどはヴィンテージ感のある落ち着いたテイストが好みで、飾る花もカラフルというよりはシックなものを選びます。「好きな花はアネモネ。ドライフラワーとしても飾っています。あとユリも好きな花の一つで、開花しきる前に花粉を取り除くと、長い間美しさを楽しめますよ」。

# “高槻”をイメージした花束をフラワーショップ

この街で暮らす人たちは、高槻についてどんな印象を持っている？ 市内の花屋さんがそのイメージを花束に！



“ 近くにある鶺殿のヨシと 高槻の魅力を盛りこんで。 ”

鶺殿のヨシ原が近くにある「市川園芸」(★上牧北駅前町1-9)。「地元のヨシを中心に、山と緑が多いのでヤマゴボウやクリの実、酒造地でもあるので黒米、上品さを表すランの一種・シンビジウムを入れ込み高槻のよさを表現しました」と市川加代さん。

“ 自然の豊かさと 都会的なテイストを。 ”



生まれも育ちも高槻の、「INAGAKI」(★芥川町1-2-B104) 店長・稲垣勝則さん。「昔から自然が多いイメージがあるのでとグリーンの花を揃えてアレンジ。「都会的でもある」とアンズリウムやケイトウなど珍しい花で、おしゃれな仕上がりに。

につくってもらいました。



“ 歴史あるクラシックさと モダンさを併せ持つ。 ”

「高槻市は歴史がある街だから、ラッピングは伝統の和紙で」と「レジュール」(★高槻町12-1)の店長・辻扶見子さん。「新しい店や施設がどんどんできている街のイメージから、品種改良のヒマワリや人気のワイルドフラワーなどを包みました」。

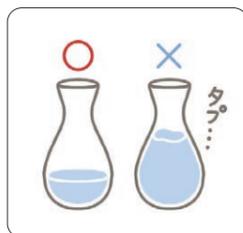
“ やさしい人が多い 街のイメージを表現。 ”



高槻市出身の男性2人が営んでいる「錦佐竹生花店 高槻店」(★芥川町3-12-35)。観葉植物の扱いも多く、花束にも高槻市民の木・ケヤキやエアプランツなどをイン。「高槻にはやさしい人が多いので、色合いもやさしい感じにしました」と店長の佐竹拓さん。

## 花束をいつまでも美しく。

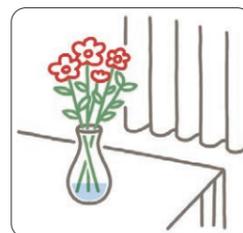
贈られたり、買ったりした花束を家に持って帰ったら、できるだけ長く飾って愛でたいもの。どのようにすれば花束をいつまでもイキイキとさせることができるか？ そのポイントを、50年以上店頭に立ってきたフラワーショップ「INAGAKI」の稲垣満利子さんにうかがいました。



花瓶に水をいっぱい入れ過ぎしまうと茎が傷みやすいため、できるだけ水は少なめに。



3日に一度は茎の裾切りを。水は毎日換えたいが、薬剤を使えば3〜4日に1回でOK。



直接太陽の光が当たらないようにカーテンを引き、できるだけ涼しい場所に置くように。

## たかつきぐらし vol.3 ぼこすけのモーニングルーティーン



# グリーンアドバイザーによる「ベランダイング」指南。

広さのないベランダでも植物を楽しめる。スペシャリストがポイントをアドバイス。



一軒家に付いている広い庭でなくても、限られたスペースのベランダでグリーンを楽しむために…工夫したいポイントを、高槻の園芸店販売スタッフでグリーンアドバイザーを務める伊藤匡哉さんに聞きました。

「うちのリビングルームの窓からベランダを見たときに、緑が美しく生えているのが目に入ってきたら、心が安らぐし、気持ちいいですよ」。

そうするためには、高さをうまく生かしたり、できるだけ素材感をそろえたラックなどを活用したり空間演出をすることで、緑がより美しく映えるベランダが実現します。

1 写真のように、多肉植物はまとめて飾るなど、グループ分けしてゾーニング。同系を集めることで水やりなどのケアもやすくなります。

2 どうしても広さが限られるので、ラックなどを用いて高さをつくるのもいいでしょう。もちろん安全面の配慮は欠かせません。

3 エアコンの室外機が目立つと気になるもの。目隠しをすることで、よりグリーンが美しく際立ちます。

4 棚や鉢などの素材をそろえると、景観の統一感が出て落ち着いた空間が生まれます。

5 植物は太陽に向かって茎や葉が伸びがち。傾かずにはまっすぐ成長させたいなら、2週間に一度程度、鉢を回して伸びる方向を変えるようにしてやるといいでしょう。

6 写真の鳥カゴのようなベースなど個性的なフォルムをワンポイントで置くことで、アクセントになります。



## グリーンアドバイザー 伊藤匡哉さん

花や観葉植物などを幅広く扱う株式会社プランテリア（☑ 清福寺町990-1）でグリーンアドバイザーを務める。実家が農家で、小さい頃から植物や土に慣れ親しむスペシャリスト。



# 花と緑のエトセトラ

高槻市の花とグリーンにまつわるあれこれをピックアップしました。植物がある生活を楽しむことで、よりいっそう充実した毎日を。

## 今年オープンしたカフェの木と花がすごい！

今年6月にオープンした「ナチュラルインザリー アフタヌーンティーカフェ」。店内には3mもある大きな木があり、飾られた約4,000のドライフラワーが目を引きまします。「“変わらぬ心”が花言葉のスターチスやユーカリなどを飾っています。ここに来た人が長くつながって幸せになってほしい」と店長の伊藤彩花さん。

☑ 城北町2-3-4 サンローズビル3F



## 押し花の葉をつくってみませんか？



自然の中で見つけたさまざまな花を押し花にして、オリジナルの葉をつくるのも、おうちの中で気軽に花と親しめる過ごし方です。台紙に押し花を貼りつけて、100円ショップなどでも市販されている菜用のOPP袋でカバーをしてからパンチで穴開け。好みの色や素材のリボンをつければ、すぐに、簡単に、自分だけの花の葉が完成します。

## 最近人気の花瓶と植木鉢。

花と緑をもっと楽しむために、最近人気の花瓶と植木鉢をピックアップ！



今、世界的に人気が出ているというアニマル柄の花瓶。



ダブルウォールガラスのような透明感あふれるベース。



一見陶器でいて、ガラスファイバーが入り割れにくい鉢。



長年手塩にかけた植物にも合いそうなエイジング加工。

## 高槻市の花とグリーン。

高槻市では、「うのはな」を市民の花、「けやき」を市民の木として定めています。



### うのはな

玉川の里(西面地区に所在)に群生する花。古来、玉川の里は天下の六玉川の一つに数えられ、うのはなや月の名所として有名です。

### けやき

古名を「槻(つきの木)」とも言い、室町時代に高さ60mものけやきの大木があり、「高月」から「高槻」になったと伝えられています。



Instagram高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」10月号特集のこぼれ話を配信中!